

## 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4090100191		
法人名	株式会社 かいせい		
事業所名	グループホーム かいせい		
所在地	門司区錦町4番26号 (電話) 093-331-7722		
自己評価作成日	平成 30 年 9 月 27 日	評価結果確定日	平成 30 年 11 月 30 日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/">http://www.kai gokensaku.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	平成 30 年 10 月 11 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・開設から、8年と半年。今年度の始まりは、開設当初からのスタッフの退職があり、少しあわただしくもあった。前年度の外部評価の発信もあり、理念の変更に取組んだ。スタッフから意見を聞き、理念を変更し、毎年行われる「家族会」で周知し、職員全体で取組むように確認し合った。立地条件もよく、ご家族の訪問もだれかれ多くの方の訪問もある。地域密着型の役割を果たすべく、異年齢交流：地域との交流も継続的に取組んでいる。  
・認知症の理解をより深める為、認知症リーダー研修への参加や、スタッフが希望した本の購入等、各自研鑽に自発的に取組めるように支援している。  
スタッフが個人で抱える業務上の悩みも、共有の悩みとして「事例検討会」を行い、すぐに解決できずとも、新しい理念「やさしく・たのしく・あたたかく」を実践できるように取組んだ。定期的な外出レクや日常の外出（ADLの状況で限られてはいるが）にも取組んでいる。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

「グループホーム かいせい」は、地域で住み慣れた中で、家族や近隣住民に見守られ、その人らしい暮らしが出来る2ユニット（定員18名）の事業所である。門司港レトロが近くにあり利便性の良い場所に設置している。屋上からは関門橋を一望することができるため夏には海峡花火大会をご家族と楽しむ事が出来ます。1階地域交流スペース・入居者交流スペースとして使用されており、2階3階は利用者の生活の場としている。研修や家族会を毎年開催し介護に対する関心の深さと、ホームとの良好な関係が構築されているまた、地域に親しまれた施設として幼稚園児や学童の児童達を事業所の行事に招待したり、入園式に利用者が招待されたりして親交がある。

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の一人として、運営推進会議へ参加いただいたり、学童保育、幼稚園児との交流、レクリエーションも多く取り組み、たくさんの方々のボランティアの方々のご支援をいただいている。今年度はスタッフと理念：家訓を新たにした。	地域密着型サービスの意義を踏まえスタッフ全員で話し合い、理念を掲げ玄関や各エレベーター前に掲示し、職員は理念を理解した上で利用者に向き合い支援している。毎月開催する地域コンサートに参加をして社会資源の活用など工夫されている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会への参加、学童の児童、幼稚園児の方々との交流の機会を持ち、ふれあいの機会を作っていたりしている。	幼稚園の入園式・町内の運動会に参加する等、地域の一人として親交を深めている。利用者が入居前から交流がある近隣の方が気軽に訪問している。近隣の理髪店など利用して地域との繋がりを日常的に行っている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	若いころ毎日のように通った、地域の商店街で買い物をする機会を作っている。理美容も可能な限り、出かけていくようにしている。 国の掲げる、地域包括支援に向けて、地域包括支援センターの発信で、エリア会もかいせいで始めて行われ、近隣の民生委員にもグループホームを知って頂く良い機会になった。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催される運営推進会議には、地域の方々、地域包括支援センター職員、ご家族の参加もいただき、できるだけタイムリーな議題を提供して、アドバイスを受けている。ご家族からの貴重なご意見をうかがう機会になっている。消防や派出所の方の参加も頂いている。	運営推進会議は2ヶ月毎に開催している。町内会長、校区代表、家族代表などが参加している。日々の過ごし方や行事時の様子等を報告しており、ご家族からは利用者についての相談なども取上げられている。町内から災害時についての協力要請もあり対応策を検討しており、地域からの参加につながっている。	
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	先日、福岡県介護福祉士会主催の「外部評価を受診して」というシンポジウムに参加した。 その折、北九州市介護保険課課長に「毎月の広報誌読んでいますよ、頑張っていますね」と、声掛けをして頂いた。毎月お送りしている広報誌が、きちんと目にとまり、評価してくださっていることを嬉しく思った。今後も発信を続けていこうと思う。	事業所の広報誌を活用して連携を図っている。近隣介護事業所にも郵送で事業所の状況を公表しており、運営推進会議への参加や外部研修、運営について適宜相談し連携している。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会を行い、介護福祉士学科会で発表の機会を得た。スタッフも今まで以上に高い意識を持ち身体拘束をしないケア（スピーチロック）に取り組んでいる。毎月のスタッフ会議で、議題とし「ない」事を前提ではないことを確認している。	身体拘束マニュアルを作成しており、職員にも配布している。虐待防止の研修の際には、スピーチロックに関する研修についての事例を取上げて各自のケアを振り返る機会を得ている。安全を考慮して、エレベーター開閉ボタンについては鍵で管理している。	
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「ない」事を前提ではないという意識を持ち、集団指導の内容を、伝達研修として行い、新聞報道された記事などを、休憩室に置き、回覧し、「あってはならない事」として意識している。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間研修計画に項目研修を位置づけている。利用者に「成年後見制度」を利用している方もいて、少し身近になってきている。外部研修に参加したスタッフの伝達研修を受け高齢者の携わるものとして必要な知識であることを意識付けている。	年間研修計画を立て外部研修の参加している。権利擁護セミナー等の外部研修に参加し、内部での伝達を行ない制度の必要性がある方には説明できるよう、パンフレットや事業所内にポスター等掲示して利用時の相談など準備している。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学时より、パンフレットの提示、料金表などを説明し、入居時には重要事項説明書、北九州市規定の契約書で説明している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置をしているが、この数年、意見が入っていたことはなかった。運営推進会議で、参加されたご家族から、貴重なご意見を頂く事がある。又、訪問されたご家族との会話の中での些細な表現にも気をつけ、意向をくみ取り設備の介護に反映させている。、家族会で意見をいただくこともある。利用者の日々の一言にも注意を払っている。	ご家族の面会が多く、施設長・管理者・職員から直接話し合いを行っている。利用者のちょっとした事でも耳を傾け、介護に反映している。利用者の状態変化については早めに報告して、ご家族との信頼関係を構築している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	昨年度より各フロアに管理者を配置、より現場に近い形で各スタッフの声を届きやすくした。管理者が、この春交代となり、少しざわざわしたが、時間が経つ毎、新しい管理者への信頼も厚くなり、チームワークも良くなってきた。毎月開催される、スタッフ会議時にフロア会議も設け、様々な意見を出しやすい工夫をしている。	朝礼やミーティング時だけでなく、普段から意見交換を行うようにしている。1人1人不満を聞いて個別でも話し合いの場を作っている。職員の入れ替わりはあるが、利用者の生活に環境には支障を来たしていない状況である。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度初めより、離職やスタッフの体調不良があり、スタッフの配置が厳しいときもあったが、派遣やパート雇用、又昔のスタッフが帰ってきてくれたりと、少し落ち着いてきた。有給の消化が現在の課題とされている。		
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	働きやすい職場、笑顔のある職場を目指し、理念を再構築し、明るい職場、笑顔ある職場を目指しているが、思うようにいかない現実がある。スタッフ一人一人が目標を持って、仕事に取り組めるよう、外部研修の機会や、資格取得のための受験対策講座等を個別に行った。	職員の採用にあたり年齢や性別による排除は行われていない。「仲間の一員として育てていこう」と目標を持ち資格取得の為、外部研修推奨し勤務調整や費用面のサポート等、個々のスキルアップを支援している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	集団指導の内容を伝達研修として、新聞をにぎわせるような介護職の不祥事も回覧し、事例に向き合う機会を作っている。	権利擁護や高齢者虐待防止、法令遵守、認知症ケア等の内部研修を実施し、参加出来なかった職員についても伝達研修を行っている。日々の関わりの中でもその都度振り返る機会を持ちながら、人権教育、啓発に努め介護労働安定センターから講師を招き事業所内で研修の実績もある。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	昨年度から、各フロアーに管理者を置き、より深くスタッフ個別対応が出来るようにした。社内研修の企画運営、外部研修参加の調整など、各スタッフに必要な研修への参加が出来るように工夫している。毎年行っている、合同研修を今年度はまだ実践できてなく、年度後半で取組みたいと考えている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加することによって、他の介護職と触れ合う機会を持てるようにしている。年2回近隣のグループホームとの交流会があっている。各フロアー管理者の集積を思っているが、スタッフ不足で実現していない。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族、MSW、ケアマネなどから相談があり、入居の御意思が確認できたときから、今ご本人がおかれている立場、様々な問題の把握に努めている。関係機関からも、医療に関する情報や日常生活の情報、ADL、薬の情報などを収集し、かいせいでの生活がスムーズに始められるよう取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係  サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の相談時に、かいせいのパンフレットに基づき、丁寧にかいせいでの生活を説明し、不安な事の聞き取り説明を行い、入居時にご家族が安心できるよう、その不安をスタッフ一人一人が理解し対応できるように取り組んでいる。		
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居初期における、本人・家族の不安や混乱が出来るだけ解消できるよう、アセスメントで把握した情報をもとに作成した計画を、各スタッフが理解し、具体的な介護に取り組めるようにしている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人一人の生活の中で、出来ること出来ないことを把握しながら、生活の必要な場面面で本人に力が発揮できるようにしている。いろいろなレクリエーションも企画して楽しい時間、他者と触れ合う機会も作っている。参加が難しい身体状況にあっても、その場にいることの楽しさを味わっていただけるようにしている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の広報誌の発送時、その月のご様子を報告している。ご家族が参加できる企画をし皆さんで楽しめるようにしている。多くのご家族の訪問があり、いつもと違う時間を過ごせるようにしている。ご家族友人等の訪問があり、外食なども楽しまれている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利便性の良い立地条件を生かし、訪問者も多い。散歩や買い物で、昔の友人に声をかけられたり、友人の訪問を受けたりと、馴染みの関係は継続している。	入居者には地域の方も多く、近隣の知り合いなどの来訪も多い。行き慣れた理美容室に通ったり、市場での買い物で知人に会ったり個別ケアでの対応を実施するなど社会資源の活用を計画している。家族との面会が多く利用者と共に会話も弾んでいる。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士を同じテーブルに座っていただいたり工夫をしている。利用者間トラブルも見られない。配膳や、食後の片付け等してくださる利用者もいるし、それが出来ない利用者は、他の利用者の様子（トイレって言いよるよ）（ちょっと立ち上がろうとしよるよ）を、スタッフに教えてくれ、スタッフの声掛けのタイミングを教えてくださいだったりする。フロア全体の空気が穏やかに流れているように思われる。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	かいせい退去時には、今後の相談に乗ったり、退去後転院先などへ訪問したりと、必要な支援をしている。		
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	認知機能やADLに個性があり、中々意向がつかめない方もいらっしゃるが、ケアごと、顔色や表情等をよみとるように工夫している。又、自己主張が出来る方の要望には、出来るだけ対応している。（なんか頂戴！外遊させて！）等等。	心身の状態、状況に配慮しながら本人の趣味や嗜好、馴染みの関係など得意とする話をしながら、信頼関係の構築や思い、意向が遂げられるような雰囲気作りに努めている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントに基づき、本人の好みや習慣等がかいせいでの生活後も継続できるように工夫している。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の記録をスタッフ間で共有することによって、その人らしい生活が出来るようにしている。また、さまざまなレクリエーションに参加することで、日々の生活に変化が持てるように工夫している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の変化は、常に記録や申し送り確認している。又日誌で共有で、違うフロアのスタッフも、状況が分かるようにしている。毎月のスタッフ会議において、各利用者のケアプランについてのモニタリングをスタッフ全員で協議し、日々の介護や、ケアプランに反映させている。	計画書に添った内容でのサービス提供が出来ているか、毎月モニタリングを実施している。担当ケアマネも、これらに添う形で本人に訪問し、家族に連絡を取り聞き取りが行われている。更に、担当職員からの気づきや希望なども還元し、更なる「質」の向上に努めている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の清潔状況、排泄、バイタルチェック等あらゆる視点から、記録し申し送りをし、状況の共有をしている。必要時にはスタッフと話し合いを持ち、プランに反映させている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	年間行事でいろいろなレクリエーションを企画し、集団レクの実施や、ADLなどに配慮した個別の取り組みを実施している。		
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の幼稚園児との交流は、恒例行事となり、七夕祭り、敬老会、クリスマス会と、訪問したり来て頂いたりとの交流が継続している。 年に1度ではあるが、学童保育の児童の訪問を受け、お正月の遊びを楽しんでいる。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に協力医の往診をお願いしているが、いままでのかかりつけ医に継続して診察の意向があれば、ご家族にご協力いただいたり、担当医に往診をお願いしたりして受診が滞らないようにしている。	協力医が懇切丁寧に利用者の生活状態や状況など聞いてくれるため、施設とは良好な関係が築かれ、急変時や増悪の際など都度の適切な指示をされている。更に、毎週水曜日は協力医の往診もあり、毎週3回非常勤で業務する看護師との情報共有もなされている。	
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は隔日勤務ではあるが、日々の日誌、看護師連携ノート、各フロアにおける申し送り表にて必要な連携が取れるようにしている。緊急時にはその手順によって指示を得るようにしている。職員は看護計画書を理解し、病状の変化時の対応を確認する。毎週水曜日に協力医への連絡を、FAXで行い、必要な連携を取っている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、入院に至る経緯の説明を介護職より行うとともに、サマリーを看護師より提出し、必要な情報を発信している。退院時には、MSWと連携を取り、退院後の生活が、滞りなく送れるよう、退院時の情報も、いただくようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	15	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時には、契約と同時に「重度化の指針」「看取りの指針」なども説明同意を得ている。状況の変化時には、その都度意向を確認している。スタッフには1年に一度、看取りについての研修会を行い、その意識への取り組みとしている。実際には、看取りを経験したことはなく、スタッフの不安はあるかも知れない。</p>	<p>看取り看護や介護に対する支援についての家族の「同意書」も交わされている。又、看取りに入る際は、事前に施設側と協力医の話し合い、協議もなされ、その結果を事前に協力医からも家族に事前周知がなされている。</p>	
36	—	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時の対応は、いつだれでも、同じ対応ができればマニュアルは準備している。年間研修計画にも位置づけ、研修を行っているが、実践ともなると、不安は否めない。</p>		
37	16	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>避難訓練を年2回計画している。訓練には町内会、自治会長などの参加も頂きながら、夜間を想定した訓練も行っている。消火活動には利用者も参加できるようにしている。</p>	<p>原則、年2回以上の訓練が行われている。訓練を行う際も、事前に近隣住民には周知を行い、協力してもらえる住民がいれば、都度の参加をお願いしている。</p>	
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	<p>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>年間研修計画に位置付け、外部研修参加、伝達研修などを行っている。日々の業務の中で、「あら？」という気付きがあれば、日誌に記入し、自分自身を振り返る機会としている。</p>	<p>職員単独、合同での「接遇・マナー」を対象とした研修が行われている。その際、「気づいた」ことは赤字で記録簿や会議録に記入し、翌月前には速やかに各職員間にも報告がなされている。</p>	
39	—	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>レクリエーションや、行事などの参加は、意向の確認をし、無理強いないようにしている。又日々の生活でも、個別の楽しみが持てるよう工夫している。また、日々のスタッフ同士で利用者が楽しめる、ちょっとしたレクリエーションを考え実践している。</p>		
40	—	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>大まかな1日の流れはあるものの、週単位で、レクリエーションに取り組んだり、個別の思いに対応できるようにしている。</p>		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	居室にはその方らしいしつらえになっていて、持参された化粧品などがおかれている。月に1度スキンケアが行われ、いつもと違う笑顔にも会うことができる。季節に合った衣類も、スタッフの支援にて、準備できている。理美容も、記録することによって、定期的に行い清潔に保てるようにしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の持てる力により、配膳下膳、食器洗いやお盆拭きなどに参加いただく。日常の調理は無いがこどもの日のおやつや、学童の訪問や、園児の訪問時には一緒に手づくりおやつを作り楽しむ機会にしている。	基本、外注された食事提供である。しかし、嗜好にも配慮され、おやつレクや行事、イベントなど開催の際は、手作りで提供されている。又、提供された食事内容により、ふりかけ、ドレッシング、梅干しなどの個々の味に合う味付けが出来るような配慮もされている。	
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	半調理済みの給食サービスを利用し、バランスの良い食事を提供している。食事、水分摂取量を記入し、体重の増減に配慮している。嚥下状況にも配慮している。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを誘導実施している。義歯の洗浄保管、ケア用品も不潔にならない様に保管している。利用者の状況に応じたケア用品を利用している。定期的に歯科医の訪問もあり、誤嚥性肺炎にも配慮している。今年度から、医療以外で、歯科医師の訪問を受け、個別の口腔ケアの留意点をスタッフが指導を受け、日々の介護に活かすしくみを作った。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて排せつパターンを把握し、出来るだけトイレで排泄できるように誘導している。尿路感染症や膀胱炎などにも気を付け、排尿痛や血尿、においなどにも気を付けている。必要時には、医師の指示のもと採尿し検査をしている。	2時間毎に声かけ、確認、誘導など排泄表による一元管理がなされている。又、排泄時には一人一人のサインが見受けられ対応している。	
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて排便の有無、形状の把握をしている。排便が3～7日間なければ看護師から医師へ連絡が行き必要な対応を取る。しかし、ある程度、自立した方は排便の有無などは同姓スタッフが排泄後声掛けをしそれとなく、有身の確認をしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった入浴の支援をしている	個別チェック表で、平等に入浴の機会が持てるように工夫している。ADL低下に伴い一人対応で安全な入浴が困難になった場合は二人対応、医療的対応が必要になったときは看護師による入浴介助が行われている。体調不良など入浴が困難な時、失便などの汚染時は清拭や、部分シャワーなどで、清潔が保てるようにしている。	毎週2回の入浴がなされている。体調により看護師にも相談。状態が良くなれば中止の判断を下し、別曜日に改めて入浴の機会を得ている。入浴の際には、洗身、洗髪介助もなされ、皮膚の状態も確認している。	週2回と決めず、一人一人の希望に合わせて、毎日入浴できるようにしてほしい。
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室やリビングで、休息が出来るようにしている。室温湿度、最高に配慮し室内環境を整えている。リネン交換の記録することにより定期的に清潔なものに交換で来ている。汚染時は都度交換している。		
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師管理の元、配薬を行いスタッフによる服薬介助が行われている誤薬は、ほとんどなくなってきている。今後も十分な申し送りが必要だと思う。薬の変化は申し送りを徹底している。服薬介助時には、スタッフ2人体制で、日付・名前の確認を行うようにしている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の出来ること、取り組みたいことしたいことに取り組みめる機会を作っている。自発的に発信がない場合は、外出レクを企画し、外に出る機会を作っている。天候を見ながら、散歩や買物の機会を作っている。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出レクを年間計画に取り入れている。近隣の幼稚園へ敬老会で訪問する機会もある。ただ、ちょっとした気候の変化でも体調を崩されることが多くなり、中々日常的とはいかない現実がある。	入所時の意向により、なるべく短時間でも職員が時間を見つけては、周辺の買い物や散歩に出かけている。又、四季折々に触れ、意向や思いを汲み取りながら外出先も検討。最近では、菊の展示会や神社、仏閣巡りや参拝にも出かけている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金として預かっている中、外出時お買い物をしたり、近所の雑貨屋さんにお買い物に行ったりしている。又預り金以外に個別にいくらかをお持ちの方については、ご家族と話し合い、トラブルにならないようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	かかってきた電話は取次、折り返している。携帯電話をお持ちの方もいるが規制はしない。利用者宛届くお手紙は本人にお渡しし、返事は投函をするなどの支援をしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1Fフロアには、毎月の行事の写真、作品を展示し、来館者や、ご家族、ご本人たちにも見ていただくようにしている。季節ごとの壁面構成は、スタッフとともに作成し、季節感のある環境整備となった。臭いにも配慮し、清潔な環境づくりを心掛けている。	木目彫つくりのリビングであり、日差しが入り明るい環境である。入居者の手作りの作品を飾っている。建物を最大限に活用し屋上にもトイレを設置している。エレベーター内に椅子を置くなどの配慮もされている。	
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースで、利用者同士、会話を楽しんだりテレビを見たりして楽しんでいる。一人になりたいときは、各部屋で、休息の時間をとるようにしているが、ほとんどの利用者はフロアでテレビをみたりお話をされたりと楽しんでいる。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、その方のお部屋。安心してゆっくり誰からも干渉されず、孤独感にも陥らないように配慮している。自宅から持ち込まれた使い慣れたものも持ち込まれ、その人らしい生活が送れるようにしている。ナースコールで、対応できるようにしている。	仏壇や写真など以前、住まっていた自宅等から自室へ持ち込まれていた。又、筆筒なども使い慣れ、見慣れた品々も持参されとても、落ち着いた住まい、環境になされていた。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室にはそれぞれの名前と、利用者ごとのスタンドグラスが飾られ「自分のお部屋」とわかるように工夫している。トイレにも視覚的にわかるように、手すりも設置し安全に配慮している。毎日個別リハに取り組み、身体機能の低下を防ぎ、出来るだけ今の身体機能の維持が出来るように工夫している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)</b>				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
<b>V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)</b>						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と		
				② 家族の2/3くらいと		
				③ 家族の1/3くらいと		
				④ ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	① ほぼ毎日のようにある		
				② 数日に1回程度ある		
				③ たまにある		
				④ ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている		
				② 少しずつ増えている		
				③ あまり増えていない		
				④ 全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が		
				② 職員の2/3くらいが		
				③ 職員の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が		
				② 利用者の2/3くらいが		
				③ 利用者の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が		
				② 家族等の2/3くらいが		
				③ 家族等の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の一員として、運営推進会議へ参加いただいたり、学童保育、幼稚園児との交流、レクレーションも多く取り組み、たくさんの方々のボランティアの方々のご支援をいただいている。地域で開催されるコンサートにも参加できるよう取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会への参加、学童の児童、幼稚園児の方々との交流の機会を持ち、ふれあいの機会を作っていたりしている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	若いころ毎日のように通った、地域の商店街で買い物をしたり、偶然会った友人と立ち話をしたり・・・レトロな錦町公民館での毎年行われる文化祭には、地域の方の参加していただけるよう工夫している。理美容も可能な限り、出かけていくようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催される運営推進会議には、地域の方々、地域包括支援センター職員、ご家族の参加もいただき、できるだけタイムリーな議題を提供して、アドバイスを受けている。ご家族からの貴重なご意見をうかがう機会になっている。		
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	昨年は更新申請の時期で、様々な場面でご指導をいただいた。改善箇所に関しても適時アドバイスをいただき改善してきた。毎月の広報誌を発送し、日常の取り組みにもご理解いただいているように思う。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今年度は、スタッフからの発信により、「身体拘束・かいせいの場合」として、勉強会を開催、学習を深めることになっている。思わず口にしてしまう「ちょっと待って」「立たないで」・・・スピーチロックへ自ら気づき、意識もつ取り組みを継続している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	毎年行われる集団指導開催後のスタッフ会議において伝達研修を行い、学びを深めている。設問6にあるように身体拘束に同じように取り組んでいるところである。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間研修計画に項目研修を位置づけている。制度としては、資料をフロアーにおき、必要な知識として身につられるよう工夫している。		
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学時より、パンフレットの提示、料金表などを説明し、入居時には重要事項説明書、北九州市規定の契約書で説明している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置をしているが、この数年、意見が入っていたことはなかった。運営推進会議で、参加されたご家族から、貴重なご意見を頂く事がある。又、訪問されたご家族との会話の中での些細な表現にも気をつけ、意向をくみ取り配備の介護に反映させている。、家族会で意見をいただくこともある。利用者の日々の一言にも注意を払っている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の中で改善したいことやこうしたほうがいいのかという意見をスタッフ会議や申し送り簿等で意見を出しあい日々の業務に活かしている。		
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度初めより、離職やスタッフの体調不良があり、スタッフの配置が厳しいときもあったが、派遣やパート雇用、又昔のスタッフが帰ってきてくれたりと、少し落ち着いてきた。有給の消化が現在の課題と思っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	働きやすい職場、笑顔のある職場を目指しているが、思うようにいかない現実がある。スタッフ一人一人が目標を持って、仕事に取り組めるよう、外部研修の機会や、資格取得のための研修受講の機会を作っている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	年に1から3回程度、法人全体の研修を、外部講師を招き企画している。また、集団指導の内容を伝達研修として、新聞をにぎわせるような介護職の不祥事も回覧し、事例に向き合う機会を作っている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	昨年度から、各フロアに管理者を置き、より深くスタッフ個別対応が出来るようにした。社内研修の企画運営、外部研修参加の調整など、各スタッフに必要な研修への参加が出来るように工夫している。毎年行っている、合同研修を今年度はまだ実践できてなく、年度後半で取組みたいと考えている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加することによって、他の介護職と触れ合う機会を持っているようにしている。年2回近隣のグループホームとの交流会があっている。各フロア管理者の集積を思っているが、スタッフ不足で実現していない。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人から相談があった時点から、今ご本人がおかれている立場、様々な問題の把握に努めている。関係機関からも、医療に関する情報や日常生活の情報、ADL、薬の情報などを収集し、かいせいでの生活がスムーズに始められるよう取り組んでいる。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の相談時に、かいせいのパンフレットに基づき、丁寧にかいせいでの生活を説明し、不安な事の聞き取り説明を行い、入居時にご家族が安心できるように、その不安をスタッフ一人一人が理解し対応できるように取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まで必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居初期における、本人・家族の不安や混乱が出来るだけ解消できるよう、アセスメントで把握した情報をもとに作成した計画を、各スタッフが理解し、具体的な介護に取り組めるようにしている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人一人の生活の中で、出来ること出来ないことを把握しながら、生活の必要な場面場面で本人に力が発揮できるようにしている。いろいろなレクリエーションも企画して楽しい時間、他者と触れ合う機会も作っている。参加が難しい身体状況にあっても、その場にいることの楽しみを味わっていただけるようにしている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の広報誌の発送時、その月のご様子を報告している。ご家族が参加できる企画をし皆さんで楽しめるようにしている。多くのご家族の訪問があり、いつもと違う時間を過ごせるようにしている。ご家族友人等の訪問があり、外食なども楽しまれている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利便性の良い立地条件を生かし、訪問者も多い。散歩や買い物で、昔の友人に声をかけられたり、友人の訪問を受けたりと、馴染みの関係は継続している。		
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士を、同じテーブルに座っていただいたりしている。ただ、利用者間トラブルもあり、日々の声掛けには配慮が必要となっている。気分転換に、ADLに配慮しながらコンサートにお連れしたり、お買い物にお誘いしたりと、息抜きにも努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	かいせい退去時には、今後の相談に乗ったり、退去後転院先などへ訪問したりと、必要な支援をしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者の何気ない一言から、不穏な動きをキャッチし、記録などで申し送りし、スタッフ間で共有し、日々の声掛けや、介護に反映させている。必要時には、ケアプランに反映させる。		
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントに基づき、本人の好みや習慣等がかいせいで生活後も継続できるように工夫している。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の記録をスタッフ間で共有することによって、その人らしい生活が出来るようにしている。また、さまざまなレクリエーションに参加することで、日々の生活に変化が持てるように工夫している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のスタッフ会議において、各利用者のケアプランについてのモニタリングをスタッフ全員で協議している。又、日々の気付きなどはその都度報告してもらい、ケアプランに反映させている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の清潔状況、排泄、バイタルチェック等あらゆる視点から、記録し申し送りをし、状況の共有をしている。必要時にはスタッフと話し合いを持ち、プランに反映させている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	年間行事でいろいろなレクリエーションを企画し、集団レクの実施や、ADLなどに配慮した個別の取り組みを実施している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の幼稚園児との交流は、恒例行事となり、七夕祭り、敬老会、クリスマス会と、訪問したり来て頂いたりとの交流が継続している。 年に1度ではあるが、学童保育の児童の訪問を受け、お正月の遊びを楽しんでいる。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に協力医の往診をお願いしているが、いままでのかかりつけ医に継続して診察の意向があれば、ご家族のご協力いただいたり、担当医に往診をお願いしたりして受診が滞らないようにしている。		
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は隔日勤務ではあるが、日々の日誌、看護師連携ノート、各フロアにおける申し送り表にて必要な連携が取れるようにしている。緊急時にはその手順によって指示を得るようにしている。職員は看護計画書を理解し、病状の変化時の対応を確認する。毎週水曜日に協力医への連絡を、FAXで行い、必要な連携を取っている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、入院に至る経緯の説明を介護職より行うとともに、サマリーを看護師より提出し、必要な情報を発信している。退院時には、MSWと連携を取り、退院後の生活が、滞りなく送れるよう、退院時の情報も、いただくようにしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には、契約と同時に「重度化の指針」「看取りの指針」なども説明同意を得ている。状況の変化時には、その都度意向を確認している。スタッフには1年に一度、看取りについての研修会を行い、その意識への取り組みとしている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当てや初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応は、いつだれでも、同じ対応ができようマニュアルは準備している。年間研修計画にも位置づけ、研修を行っているが、実践ともなると、不安は否めない。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回計画している。訓練には町内会、自治会長などの参加も頂きながら、夜間を想定した訓練も行っている。消火活動には利用者も参加できるようにしている。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年間研修計画に位置付け、外部研修参加、伝達研修などを行っている。日々の業務の中で、「あら？」という気付きがあれば、日誌に記入し、自分自身を振り返る機会としている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーションや、行事などの参加は、意向の確認をし、無理強いないようにしている。又日々の生活でも、個別の楽しみが持てるよう工夫している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな1日の流れはあるものの、週単位で、レクリエーションに取り組んだり、個別の思いに対応できるようにしている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	居室にはその方らしいしつらえになっていて、持参された化粧品などがおかれている。月に1度スキンケアが行われ、いつもと違う笑顔にも会うことが出来る。季節に合った衣類も、スタッフの支援にて、準備できている。理美容も、記録することによって、定期的に行い清潔に保てるようにしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の持てる力により、配膳下膳、食器洗いやお盆拭きなどに参加いただく。日常の調理は無いがこどもの日や、学童や園児が遊びに来た時は手作りおやつをつくったりと参加する機会を作っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	半調理済みの給食サービスを利用し、バランスの良い食事を提供している。食事、水分摂取量を記入し、体重の増減に配慮している。嚥下状況にも配慮している。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを誘導実施している。義歯の洗浄保管、ケア用品も不潔にならない様に保管している。利用者の状況に応じたケア用品を利用している。定期的医療以外で歯科医の訪問もあり口腔内の清潔指導を受けて、誤嚥性肺炎にも配慮している。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて排せつパターンを把握し、出来るだけトイレで排泄できるように誘導している。尿路感染症や膀胱炎などにも気を付け、排尿痛や血尿、においなどにも気を付けている。必要時には、医師の指示のもと採尿し検査をしている。		
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて排便の有無、形状の把握をしている。排便が3～7日間なければ看護師から医師へ連絡が行き必要な対応を取る。しかし、ある程度、自立した方は、排便確認をする前に、羞恥心から流してしまわれることがあり、正確な把握が困難な時もあった。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	個別チェック表で、平等に入浴の機会が持てるように工夫している。ADL低下に伴い一人対応で安全な入浴が困難になった場合は二人対応、医療的対応が必要になったときは看護師による入浴介助が行われている。体調不良など入浴が困難な時、失便などの汚染時は清拭や、部分シャワーなどで、清潔が保てるようにしている。		
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室やリビングで、休息が出来るようにしている。室温湿度、最高に配慮し室内環境を整えている。リネン交換の記録することにより定期的に清潔なものに交換で来ている。汚染時は都度交換している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師管理の元、配薬を行いスタッフによる服薬介助が行われている誤薬には十分配慮しているが、なかなか無くならない。今後も十分な申し送りが必要だと思う。薬の変化は申し送りを徹底している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の出来ること、取り組みたいことしたいことに取り組める機会を作っている。自発的に発信がない場合は、外出レクやコンサートを聴きに行くなどして、外に出る機会を作っている。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出レクを年間計画に取り入れ、外食の機会やコンサートに行く機会も設けている。利用者個別の状況において、コンサートなどの参加が困難な場合は、個別に散歩の機会を作っている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金として預かっている中、外出時お買い物をしたり、近所の雑貨屋さんにお買い物に行ったりしている。又預り金以外に個別にいくらかをお持ちの方については、ご家族と話し合い、トラブルにならないようにしている。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	かかってきた電話は取次、折り返している。携帯電話をお持ちの方もいるが規制はしない。利用者宛届くお手紙は本人にお渡しし、返事は投函をするなどの支援をしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月の行事の写真を展示し、来館者や、ご家族、ご本人たちにも見ていただくようにしている。季節ごとの壁面構成は、スタッフとともに作成し、季節感のある環境整備となっている。使用済みのパットを新聞紙で包み、ビニール袋に入れ処分する等工夫して、臭いにも配慮し、清潔な環境づくりを心掛けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースで、利用者同士、会話を楽しんだりテレビを見たりして楽しんでいる。一人になりたいときは、各部屋で、趣味の時間を楽しまれたりしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、その方のお部屋。安心してゆっくり誰からも干渉されず、孤独感にも陥らないように配慮している。自宅から持ち込まれた使い慣れたものも持ち込まれ、その人らしい生活が送れるようにしている。ナースコールで、対応できるようにしている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室にはそれぞれの名前と、利用者ごとのスタンドグラスが飾られ「自分のお部屋」とわかるように工夫している。トイレにも視覚的にわかるように、手すりも設置し安全に配慮している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
<b>V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)</b>						
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの	<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
			<input type="radio"/>	①毎日ある	<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある	<input type="radio"/>	④ほとんどない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
<b>V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)</b>						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と		
				② 家族の2/3くらいと		
				③ 家族の1/3くらいと		
				④ ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	① ほぼ毎日のようにある		
				② 数日に1回程度ある		
				③ たまにある		
				④ ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている		
				② 少しずつ増えている		
				③ あまり増えていない		
				④ 全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が		
				② 職員の2/3くらいが		
				③ 職員の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が		
				② 利用者の2/3くらいが		
				③ 利用者の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が		
				② 家族等の2/3くらいが		
				③ 家族等の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		